

井野春毅先生の開業地跡標板*

熊本歯医会顧問 枋 原 義 人**

○

今度、熊本県歯科医師会創立70周年記念事業の一環として、熊本が生んだ近代日本歯科医界の大先覚 井野春毅先生の熊本での歯科医院開業地跡に標板が建設された。併せて、同時に井野先生の肖像額を県歯会館内に掲げるに至ったことは、誠に喜びに堪えない。多年、井野先生顕彰事業に務めて来た筆者も、これで一段落がつきポツとした実感を味っている。この顕彰標板は将来、熊本市

観光課の公的管理に移管させて戴き熊本市の史蹟として永存されることを待望しているところである。

顕彰標板（高さ 180 cm）

前面 歯科医院九州第1号

井野春毅先生開業地跡

側面

日本歯科医界の大先覚井野春毅先生は菊池郡の生れ、明治19年3月ここに歯科医院を開設された。

昭和53年8月 熊本県歯科医師会建之

この標板設置場所は、熊本市新町2丁目5番20号（旧塩屋町）菓子店棟永トキ宅である。この場

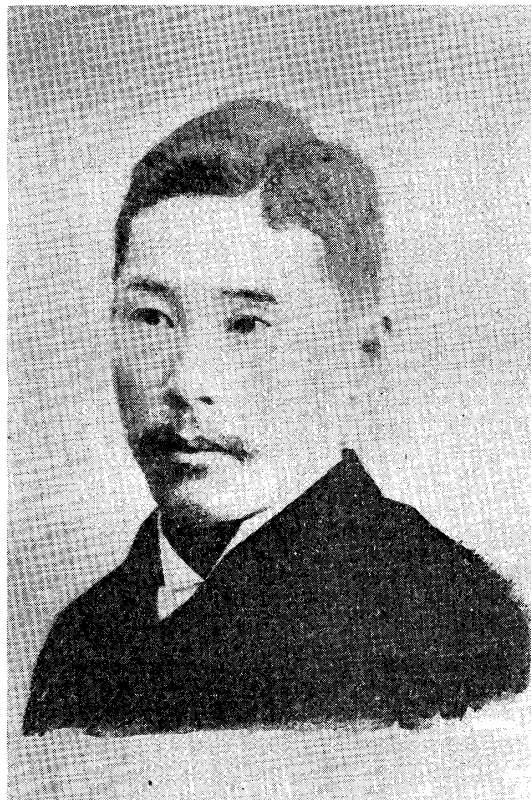


図1 井野春毅先生

* 井野春毅

** Yoshito Tochiara



図2 開業第1号の案内板。河喜多義忠氏（右）筆者（左）

表 1 井野春毅年譜

1852年嘉永5年9月5日	熊本県菊池郡合志町竹迫中町 1764年生れ 幼名 春気成人して春毅
	父 衛藤直左衛門 31歳 } 長男 母 (西島) 多美 22歳 }
1860 万延元	9歳 弟亀吉生る
1864 元治元	13歳 弟三太郎生る
1865 慶応元 10 2	14歳 父直左衛門 44歳逝く 母多美 35歳, (本人) 春気 14歳, 弟亀吉 6歳, 弟三太郎 2歳
1869 明治2	合志郡上庄村の若木弥七ー3男ー藤四郎31歳義父となる
1874 明治7	18歳まで竹迫の巖照寺第18代住職山隈玉隣の塾で勉学
1875 明治8 10 14	23歳 熊本医学校入学 学友 北里柴三郎 北村道一
1876 明治9 5	24歳 学友 北村道一の厚意で阿蘇一の宮町三野の医師井野斉の養嗣子となる
1877 // 10 2	25歳 熊本医学校卒業
1879 // 12	26歳 西南の役一軍医として従軍し精勵し受賞 上京して警視庁警察医となる
1880 // 13 8 30	28歳 警視庁警察医を辞し一歯科へ転向
1881 // 14	29歳 養母(古閑)井野和歌逝く 61歳
1882 // 15 11 2	東京一神田に一歯科医開業 神田今川小路2丁目4
1884 // 17 3 6	31歳 実弟戸主亀吉 26歳 上京して3年間寄留同居す
	33歳 日本最初の医術開業試験委員(歯科担当)となる。歯科医籍第1号ここに始まる
1884 // 17 5 17	33歳 長男春隆生る
1885 // 18	34歳 宮内省侍医拝命一歯科侍医最初の人 学友一北里柴三郎ードイツ留学のため出発に際し物心両面の応援をした
1886 // 19 3	35歳 熊本市塩屋町園田旅館で一歯科医院開業 九州での最初の歯科開業
1887 // 20	36歳 ウラジオストクで歯科医療 次男春昭生る
1888 // 21	37歳 知友一合志林蔵 41歳 尚絅女学校創設中の内藤儀十郎42歳に協力し建築資金調達中につき30分の1を寄附す
1889 // 22	38歳 露領ハバロスクで歯科医療
1890 // 23	39歳 日本に帰り一東京神田淡路町で開業
1898 // 31 2 22	47歳 母一多美65歳逝く
1903 // 36 11 5	養父 井野斎逝く78歳
1904 // 37	53歳 天草郡牛深炭坑経営
1908 // 41	57歳 上海にて歯科医開業
1912 大正元 11 26	61歳 上海で歯科医院盛業中逝去
1931 昭和6 3 7	夫人姉婿古閑太覚逝く 82歳
1937 // 12 8 28	次男 春昭逝く 51歳
1945 // 20 3 13	夫人 井野宇知子88歳逝去
// // // 28	長男春隆逝く 62歳, 北里研究所々員
1956 // 31 4 15	医学博士栃原義人62歳 菊池郡合志町竹迫の(衛藤)井野春毅先生出生地訪問 衛藤直左衛門の墓に額づく
1961 // 36 11 22	下田曲水氏80歳笹原助氏よりきいて, 阿蘇郡一の宮町三野の井野先生の墓に栃原義人67歳が額づく
1962 // 37 6 4	阿蘇郡一の宮町三野に一井野春毅先生顕彰の墓所案内標木を熊本県歯科医師会で建設
1967 // 42 4 23	阿蘇郡古城ヶ鼻の一九州横断高速道路端に第2次の井野春毅先生墓所案内顕彰標木を県歯科医師会で建設
1968 // 43 4 11	菊池郡合志町竹迫の井野先生ゆかりの地を訪問し河喜多義忠, 栃原義人ら井野先生

表1 つづく

1968年昭和43年 6 月 4 日	顕彰の件で合志町当局と協議
1968 〃 43 10 29	菊池郡合志町竹迫の生誕地および熊本電鉄辻久保電停際に一井野先生顕彰標識を合志町教育委員会、熊本県歯科医師会で建設
1975 〃 50 5 18	阿蘇郡一の宮町三野の現地にて、井野先生の墓前祭一県歯科医師会 阿蘇郡歯科医師会共催
1978 〃 53 8 29	井野先生が明治19年 熊本市で始めて歯科医院を開設した地番確認さる
1978 〃 53 8 8	熊本市新町2丁目5番20号(旧塩屋町)棟永トキ宅に井野先生開業地跡の標識を県歯科医師会で建設
	井野先生の肖像を熊本県歯科医師会館に掲ぐ

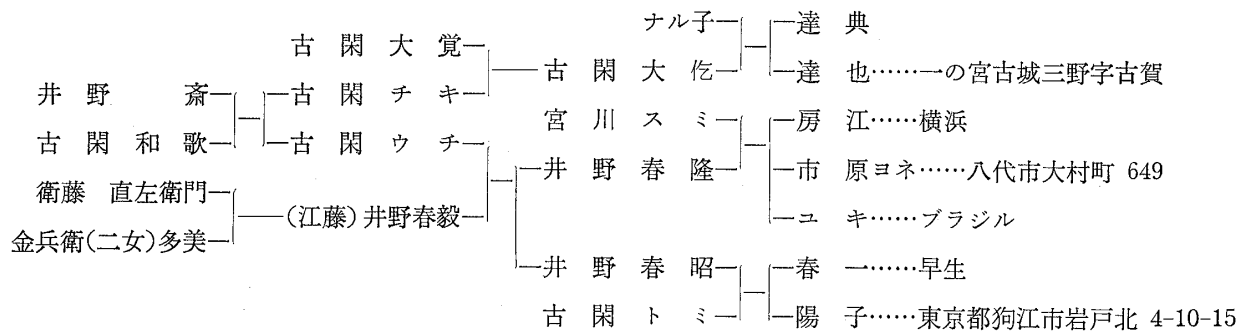


図3 遺族系図

所は、明治10年の西南の役で戦火に逢い、その直後明治12年、現在の家が建てられている。先生は明治19年3月、この家で歯科医院を開業されたのであるが、その時ここは園田旅館（園田万造方）であった。当時、熊本市は、九州一の大都会で、この界隈が市中心の繁華街であったというから、先生がここを開業地を選んだのも成程とうなずける。今この家の中に入って見れば大きな材木の木組みがガッチリしていて昔を偲ばせている。

○

さて、近代日本歯科医界の先覚井野春毅の業績は、極めて顕著で日本的であった。その功績を重点的に挙げれば次の3点にまとめられる。第1点、明治17年春から医術開業試験の中に歯科医師の国家試験が始まった。そして、その最初の歯科担当の試験官は井野先生ただ1人であった。即ち、現行の歯科医籍第1号は実に先生によって作られたものである。第2点、歯科侍医最初の人であった。皇室の侍医と言うものは高く評価され、当時、医術開業試験委員資格の第1項にも明記されていた程であった。第3点、明治19年3月から数ヶ月ではあったか熊本市に開業した。これが九

州における歯科医院開業の第1号であった。その他、明治36年7月より天草の牛深無煙炭坑を経営した。即ち先生には日露戦争ともなれば、軍鑑の燃料の確保が必要であるとの国際的視野があったと思われる。

なお、井野先生は普通医から歯科へ転向した日本最初の歯科医師である。従って、井野春毅は歯科医籍にはない。法的呼称では、歯科専門^{ひょうぼう}を標榜することの出来る医師、即ち「歯科標榜の医師」第1号であった。

さらに、また、この機会に井野春毅年譜、遺族系図、文献目録を附記して井野春毅研究の資料を提供して置く次第である。終りに多年この顕彰事業に協力載いた郷土史家、河喜多義忠氏に心から感謝申上げる。

参考文献

- 1) 歯科医事衛生史：前巻，p.102，井野春毅，日本歯科医師会発行，昭和15年10月。
- 2) 近代歯科の草分け井野春毅先生の出生地を訪ねて（1，2，3），熊歯会報24号，25，26合併号27号，昭和31年9，11月，昭和32年2月。
同題 日本談義75号，昭和32年2月。

- 3) 近代歯科の先哲井野春毅先生の墓：熊歯会報73号，昭和36年12月。
同題 西海医報162号，昭和36年12月。
- 4) 井野春毅先生と歯科医師会の胎動期：熊歯会報74号，昭和37年1月。
同題 西海医報165号，昭和37年3月。
- 5) 井野春毅伝（1，2，3）：熊歯会報75，76，77号，昭和37年2，3，4月。
同題 歯科時報17巻11号，昭和38年11月。
- 6) 井野春毅先生顕彰標木を建てに行く：熊歯会報79号，昭和37年6月。
- 7) その後の井野春毅先生の顕彰標木：熊歯会報83号，昭和37年10月。
- 8) 熊本県史近代篇：p. 274，井野春毅，昭和37年3月発行。
- 9) 井野春毅先生の顕彰標木：歯科時報16巻12号，昭和37年12月。
- 10) 井野春毅小伝：熊本県歯科医師会史，昭和38年6月発行。
- 11) 観光バスガイド嬢の名調子に乗った井野春毅先生の顕彰標木：熊歯会報136号，昭和42年6月。
- 12) 井野春毅先生と歯科医籍：熊歯会報147号，昭和43年5月。
- 13) 井野春毅先生顕彰標木建立：熊歯会報148号，

昭和43年6月。

- 14) 井野春毅先生の墓前祭：熊歯会報151号，昭和43年9月。
- 15) 日本歯科医界の大先覚（江藤）井野春毅先生年譜：河喜多義忠編，熊歯会報151号，昭和43年9月。
- 16) 開業歯科医の草分け井野春毅：熊本日日新聞，上田登志文，昭和43年5月28日。
- 17) 日本歯科医界の先覚，井野春毅先生の顕彰標木：第32回全国学校歯科医大会要項，昭和43年11月。
- 18) 明治中期に井野春毅先生が活躍した露領歯科巡回診療の実証：熊歯会報180号，昭和46年3月。
- 19) 井野春毅先生に関する資料：熊歯会報181号，昭和46年4月。
- 20) 井野春毅先生に関する文献：熊歯会報221号，昭和49年8月。
- 21) 九州での歯科医師開業第1号の地番確認さる：熊歯会報231号，昭和50年6月。
同題 日本歯科医史学会々誌3巻2号，昭和50年10月。
同題 日本談義298号，昭和50年9月。

註：以上文献の中，1，8，15，16の外は何れも筆者栃原義人の執筆（昭和53年9月稿）